

## 産業建設常任委員会所管事務調査報告（令和7年度）

### 1. 調査テーマ

「観光振興について」

### 2. 経過

開催日	主な調査内容
令和7年6月20日	1年間の調査テーマの決定 担当部局への聞き取り調査 ・経済振興課から「観光振興について」の現状等について聞き取り調査を行った。
令和7年8月6日 ～8日	先進地への行政視察 ・大分県竹田市において「歴史的な町並みを生かした観光振興について」、宮崎県椎葉村において「観光振興について」の視察研修を行った。
令和7年9月1日	行政視察の振り返りと今後の所管事務調査について協議 ・8月6日から8日に行った行政視察を振り返り、今後の方針について委員間で協議を行った。
令和7年9月10日	令和7年第3回定例会 所管事務調査 ギャラリーしろかわ ししの里せいよ ・西予市立美術館「ギャラリーしろかわ」と、西予市獣肉処理加工施設「ししの里せいよ」を視察し、各施設の現状と今後について説明を受けた。
令和7年10月20日	観光施設職員との意見交換会（市民と議会との意見交換会） 一般社団法人西予市観光物産協会 一般社団法人n f c ・各団体、施設の現状や観光振興に向けた取組、今後の西予市における課題等について意見交換会を行った。
令和8年3月10日	調査研究のまとめ ・1年間の調査研究結果及び提言について報告書の作成を行った。

### 3. 所管事務調査の結果

#### （1）行政視察

竹田市では、商工観光課職員から「歴史的な町並みを生かした観光振興」について説明を受け、現地視察を行った。

まず、竹田市の代表的な観光資源として国指定史跡の岡城跡や、久住高原などの四季折々の自然や歴史的背景を活かした観光地として多くの来訪者に親しまれているとの説明があった。

歴史的な町並みを生かした観光振興の具体的な取組として、城下町エリアの中心地に小規模な集会からイベントなどでも利用できる「城下町交流プラザ」を建設し、施設利用者や観光客の交流の拠点整備を行った。

コンソーシアム事業としてまちづくりたけた株式会社を設立し、昔からの「岡城桜まつり」などのイベントの運営から「KABOSUでわっしょい」や「豚（とん）で城下町」などの生産者と飲食業者をつなげる地域のハブとしての役割を果たしているとのことであった。

また、長湯の温泉群などを生かした健康増進プログラム「たけたウェルネス滞在プラン」を策定し、ターゲットを明確にした観光プランの充実に力を入れているとのことであった。

椎葉村では、地域振興課職員と（一社）椎葉村観光協会事務局長から「観光振興について」現状と取組について説明を受け、現地視察を行った。

椎葉村は、九州山地の奥深くに位置する「日本三大秘境」の一つであり、焼畑農業や神楽などの伝統文化と豊かな自然が共存する地域である。人口は少なく、交通アクセスも不便であるが、その地理的特性を活かした独自の観光資源を有している。観光面では、椎葉平家まつりをはじめとする伝統行事や、登山道整備、アウトドア体験の創出など、季節ごとの自然体験を活かした個性的なアクティビティが展開されている。また、観光協会は地域DMO（観光地域づくり法人）に登録しており、村と連携しながら収益事業と公益事業を一体的に進める体制を整えているとのことであった。

また、観光プロモーションの方向性も「外から内へ」とシフトし、村民が地域の魅力を再認識する取組が進められている。PR動画や写真展などを通じて、地域の魅力を発信し、立場を越えた協働によるまちづくりが進められている。

一方で、交通の不便さや観光事業の担い手不足といった課題もあり、官民連携による観光プロジェクトや施設整備が進められている。自然・文化・人のつながりを活かし、持続可能な観光と地域づくりを目指しているとのことであった。

## （2）市民との意見交換会

開催日：令和7年10月20日（月）

相手先：一般社団法人西予市観光物産協会、一般社団法人n f c

下記の項目について、意見交換を行った。

（1）観光振興に向けた取組と今後の展望について

（2）西予市の対応について

一般社団法人西予市観光物産協会から事務局職員2名と各観光施設で働かれている職員3名、一般社団法人n f cから米博物館で働かれている職員1名の計6名と意見交換を行った。各施設でのイベントなどの取組や問題点などを確認し、どのようにすれば西予市の観光振興につながるか意見を伺った。

意見交換会では、西予市の多彩な観光資源が点在しているがそれらを周回できるようなルートが整っていないことや、施設の経年劣化による老朽化、各観光施設同士の連携が無く一体感がないこと、来館者から学芸員を求める声が多いことなどを伺った。

#### 4. 所管事務調査の結果を踏まえ、市に対しての提言

##### (1) 観光の「グランドデザイン」の策定

現在、西予市全体として「観光でどこを目指すのか」、「地域資源をどう活かすのか」という長期的な方針が明確ではないため、施設単位での単発的な取組が多く、連動性・一体感が生まれていないと感じる。施設・住民・事業者・行政が同じ方向を向いて取り組めるよう、市としての観光ビジョン（グランドデザイン）の策定を検討すること。

##### (2) 観光マネジメント組織（司令塔）の創設

各施設・地域・事業者をつなぎ、情報一元化、連携事業、周遊ルート形成などを統括して進めるには中核組織が必要と感じる。西予市でも大洲市の「キタ・マネジメント」のような役割を持つ組織（DMO）を整備できないか検討すること。

##### (3) 市全体での情報発信の一元化

SNSやパンフレット、ホームページ等での情報発信する主体がバラバラで、市全体として統一感を欠いている。利用者が迷わずアクセスできるよう、入口を一本化した情報発信体制を整備すること。

##### (4) 卯之町はちのじェリアの発展について

- ・来訪者から「駅に案内所がない」、「最初の案内の場が遠い」、「コインロッカーがない」との声が多い。観光のゲートウェイとして、駅周辺への案内所等の整備を検討すること。
- ・町並みエリアは道が複雑で、来訪者の多くが迷っている。案内看板の増設や更新、わかりやすい経路の提示などの整備を検討すること。
- ・現在地や駐車場がわかり、目的施設までのルートを表示できるQR連動のデジタルマップや多言語案などの整備を検討すること。
- ・現在、観光拠点施設ゆるりあんと、西予市宇和文化の里施設の閉館日が異なっている。来訪者がどちらの施設も利用できるよう閉館日の統一を検討すること。

##### (5) 文化の里関連条例の柔軟化

- ・指定管理者であるにもかかわらず、料金設定など多くの部分に裁量がない。施設運営の柔軟性が確保できるよう、条例の見直しを検討できないか。